

テーマ 交流の場における視聴覚機器活用」

提案者 群馬県吾妻郡長野原町立中央小学校 山野 悟

1,提案の概要

(1)提案の趣旨

総合的な学習の時間では、児童が自らの学習について見通しをもって振り返ったり、学習を進めたりしながら、課題を追求していくことが重視されている。そこで、本校では学習の状況等について他者との伝え合いや意見交換を充分に図りながら、学習の内容を広げたり、深めたりしている。

具体的実践として、テレビ電話を活用した他校との交流やイントラネットを活用した校内での交流を行った。

このような双方向通信を活用することで他者との交流を深め、相手が理解しやすいように表現を工夫したり、相手の意図をつかみながら応答したりする能力を身につけることができる考えた。

(2)具体的実践の内容

テレビ電話を活用した交流

テレビ電話交流では以下のことに留意した。自分たちの学習への取り組みを相手に分かりやすく伝えるための工夫

- ・伝えたい事柄を明らかにする。
- ・目的に応じて表現の方法を工夫する。

テレビ電話交流の運営について、両校の児童間でメールなどで事前打ち合わせをすることで児童の主体的な活動を促す。

質疑応答を通して学習を振り返り、自分たちの考えを広げたり、深めたりさせる。

交流を通して、自他のよさに気づかせる。

イントラネットを活用した交流

校内LANを活用し、総合的な学習の経過等を、全校に向けて随時発信し、それに書き込みも行っている。

テレビ電話のようにリアルタイムでの交流ができない分、文章や静止画像だけで、より分かりやすい表現を工夫する。

校内のどのコンピュータからでも送受信ができるので、手軽に活用する。

意見の発信や受信を通して、自他の考えを

尊重しながら、ネットへの関心を高め、情報社会へ参画する態度を養う。

2,研究協議の概要

教科等でのコンピュータの位置づけ。

- ・「長野原町」では小学校と中学校の情報部会が中心となって連携を図り、どのレベルまで到達させるかといった計画を立てて推進している。

NTTフェニックスの活用と、インターネットの活用とではどんなちがいがあるか

- ・フェニックスは相手がフェニックスでないと交流できないという限定されたところがある。インターネットは動作が不安定で、使用中に切れてしまうことがある。

3,指導講評

テレビ電話等を活用しての交流について

テレビ電話を活用しての交流は、相手校との距離的なこと、時間的なこと等を考えると、リアルタイムで指導できることは大変有効である。どんな場で、誰と、どのように交流していくことが有効なのかを考えて指導を図る。

機器活用のよさを有効に活用すること

- ・イントラネット等を活用していくことで時間的な制約をはずすこともできたり、自由に書きこんだりすることができる。どんなメリットがあるかを考えて活用し、交流を深めていくこと。
- ・課題追求の場面での活用は有効であるが、どの場で、どのように活用していくかを明確にして指導をしていくこと。
- ・実体験できないという部分をどうフォローして活用していくかが課題である。